

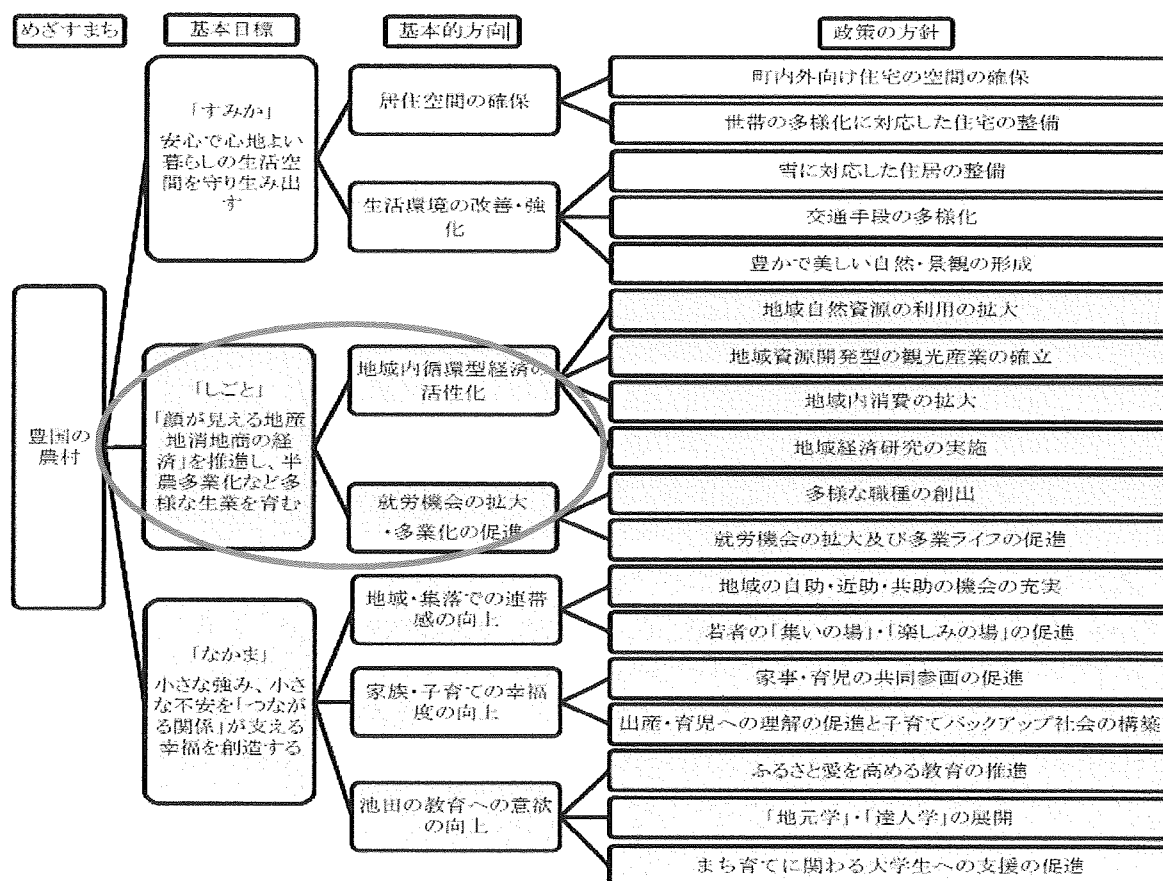
# 第4回池田町・地方創生戦略町民会議 ～「しごと」部門①～

令和2年8月6日(木)

午後2時～5時

能楽の里文化交流会館 2階大会議室

地方創生戦略体系図



# しごとに関する基本目標について

## 【第1期戦略より】

- 町外流出の要因は、「流出・縮小する経済構造」と「仕事の減少」
- 農林業や観光を軸とした6次産業化などで地域資源活用型の産業を創造することと、経済循環を高めることが重要。
- ITインフラ整備などで創造的な業務を行う企業の誘致なども促進

地方創生戦略第2章から抜粋

**顔が見える地産地消地商の経済を推進し、半農多業化など多様な生業を育む**

農村にある地域資源からは、生業的な仕事づくりや、新しいスタイルの商品開発が可能となる。食・観光分野での新たな起業や、半農半Xスタイルでの多様な仕事のあり方が可能となることで、「お金を稼ぐ」ことと、「個性を輝かせる」ことの両立が実現する。

またグローバル化する経済に対抗して地域を守っていくための循環型経済システムの構築に向けて行政がリーダーシップを発揮していく。

## 地域内循環型経済の活性化

### 【政策実施指標の達成状況】

重要業績評価指標	目標値	H27年度→現在	説明
リサイクル率	50%超	49.5%(H25) ↓ 47.0%(H28)	・環境まちづくりを総合的・一体的に進めた時代に比べて、リサイクル率の低下やごみの1人1日当たり排出量の増加など、循環経済への意識と行動が少しずつ弱体化している状況にある。
観光入込客数	20万人	154,088人⇒245,394人 ※観光消費額 401,137千円(H31/R1)	・観光入込客数は、立ち寄り客も含むため、滞在時間を改善するためには、観光消費額や宿泊客数を増やし、満足度を高めていくことが必要。 ・また、農林水産物の販売額の追跡も必要。
宿泊客数	10,000人	5,004人⇒11,988人	・宿泊施設は、「冠荘」「ファームハウスコミュニティ」「農村de合宿キャンプセンター」「TPAコテージ・樹上テント」。
LM3(Local Multiplier 3: 地域内乗数効果)	向上	1.37(H28)	・食費のうちの外食や惣菜の取り戻し、光熱水費のうちの灯油の取り戻しが有効であるとされながら十分とは言えない。

以上のほか、農業で5.6億円、林業生産で約1億円、福祉事業で約2～3億円、土木公共建設事業で14.6億円の売上高とされている。また、町外からの稼ぎが、23億円あるとされている。

池田町では、近年宿泊施設の整備により観光消費額の増加が実現しているが、地域農産物を使った物産開発などは遅れていて、観光を地域の農林業と結びつける6次化の動きは、十分とはいえない状況となっている。

# 就労機会の拡大・多業化の促進

## 【政策実施指標の達成状況】

重要業績評価指標	目標値	実績	説明
多様な生業 新規起業	13件	→9件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○園芸農業・6次化</li> <li>・ハーブティー栽培</li> <li>※新商品としては、くろもじ茶、そばぷりんなどが開発</li> </ul>
	13件	→5件	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農家民泊事業</li> <li>・農家民宿、ライダー&amp;ゲストハウス</li> <li>○デザイン関係業種</li> <li>・建築事務所</li> <li>○農村体験事業</li> <li>・アーシングツアー</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>○観光産業</li> <li>TPA・あそびハウス</li> <li>○その他</li> <li>・カフェ、写真館、本屋など</li> <li>・コワーキングスペース</li> </ul>

新たな「事業」の開発について、一定程度の実績が生まれている。一方で、「雇用」につながるようなベンチャービジネスはなかなか起きていない。また、サービス業が多いため、地域資源（農林産物）の付加価値化につなげていない状況がある（商品化の素材となるものの生産を担う人がいない）。事業者が横連携して新たな価値を生み出すような、相乗効果には到達していない状況。

## 「産業政策・雇用政策」の課題

### ●これまでの産業政策についての検討

#### ○「素材」「コンテンツ」が遅れている（商品が少ない）

- ・商品開発をしようとする「人」が少ない
- ・そもそも「原料生産が縮小」（例 ミディトマト）

#### ○「起業」はあるが「就職先」としての雇用は少ない

- ・自営業も選択肢となる時代だが、雇用がやはり重要（大卒の人達の声として）
- ・農林業など技や知恵の継承のためにも「組織」は重要
- ・地域にすでにある「事業」承継は考えるべきかどうか

#### ○「本社」がなければならないわけではない

- ・ITによって、東京本社でも池田町で勤務できる時代
- ・交通基盤整備により、通勤できる範囲を増やす作戦もある

# これからの「産業政策・雇用政策」について

## 地方創生につながる「産業」についての考え方の提案

### ①地域の宝を活かし守る産業(外貨獲得+内需)

- ・農業生産の拡大(園芸など)
- ・林業生産の拡大と収益性確保(丸太・木材・製材)
- ・これらを活かした「商品開発」
- ・観光開発事業

### ②池田町の暮らしを豊かにする産業(内需中心)

- ・エネルギー・インフラ産業  
薪ビジネス・小水力発電事業・上下水道管理事業
- ・外需を取り戻していく事業  
食品製造(総菜加工・食品加工)事業

### ③アフターコロナ時代の農村勤務産業

- ・近隣企業に通勤する仕事(東京の過密な仕事環境を避ける)
- ・東京や世界企業に池田町から勤務する(IT環境)

## 「産業創造・雇用創出」についての論点

### ■池田町における「地方創生」産業の方向性とは？

- (1)農林畜漁業
- (2)観光サービス業(宿泊・体験・商品)
- (3)地域福祉サービス
- (4)その他

### ■産業に関わる「人」の課題の解決方向とは？

- (1)経営する人をどのように確保し、どのように育成するか
- (2)働く人をどのように確保し、どのように育成するか

## 「産業創造・雇用創出」についての論点【次回】

- 地域外での「仕事」をどう支援するか？
  
- 地域産業を活性化するための「消費」のあり方は？
  
- 行政による地域経済循環の取り組みは適切か？
  - ・ 地域応援券での「補助金」支払い
  
- 景観・環境面での地域資源循環の取り組みの今後は？